

講義名	スポーツ文化論			
担当教員	山口 泰雄			
開講期・曜日・時限	後期 月曜日 1時限	授業形態	講義	
履修開始年次	2年生	単位数	2	備考

主題と概要

スポーツは、世から世代へと継承されてきた人類固有の文化である。スポーツは、運動能力の優れたアスリートや若者だけの活動だけでなく、ライフステージを通して一人ひとりが楽しむことができる「生涯スポーツ」として世界へと広がった。また、スポーツ文化は民族や地域、世代、ジェンダー、学校・大学、イベントなどで発展し、その多様性 (diversity) と包容性 (inclusion) が注目されている。

本講では、特に「するスポーツ」「みるスポーツ」「ささえるスポーツ」というスポーツ文化の側面に着目する。「するスポーツ」においては、スポーツの楽しさや社会化過程に焦点を当て、スポーツクラブや生涯スポーツ、スポーツ・フォー・オールを考え方を解説する。「みるスポーツ」においては、オリンピックやパラリンピック、海外のスポーツを取り上げる。「ささえるスポーツ」においては、スポーツボランティアやスポーツイベントを取り上げ、文化的価値と地域振興への貢献を解説する。

到達目標

本講の到達目標は、以下のとおりである。

- 1) スポーツ文化の諸相に関する基礎知識を身に付けることができる。
- 2) スポーツ文化の諸相に関する理解できる。
- 3) スポーツ文化の諸相の普及と発展を自ら考え、情報を的確に収集し、多面的な視点を習得できる。

提出課題

授業のおわりに、その日のポイント、動画の感想等をレスポンスにより、提出する。また、中間テストと期末テストをレスポンスにより、実施する。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

毎回の授業において、前回授業の振り返りを行う。その際、提出されたレスポンスの内容に関する講評を行う。

評価の基準

中間テスト (30%)、期末テスト (30%)、出席・授業態度・質問等 (40%)。

履修にあたっての注意・助言他

遅刻者は、開始後15分以内とし、静かに着席すること。講義中の質問は加点する。授業中の私語は厳禁で、使用を指示しない限り、スマホ使用を禁止とする。

教科書	.使用しない。				

プリント資料及び参考文献

プリント資料は必要に応じて配布する。
 参考図書は、「よくわかる スポーツ文化論 改訂版」(井上俊/菊幸一 ミネルヴァ書房)。「スポーツ・ボランティアへの招待：新しいスポーツ文化の可能性」(山口泰雄編著、世界思想社)。

授業計画

1. オリエンテーション、スポーツ文化とは？
2. スポーツのセントラルセオリー
3. スポーツへの社会化
4. スポーツの楽しさ
5. 生涯スポーツ
6. スポーツ・フォー・オール
7. 子どもスポーツ
8. ジュニアスポーツ、中間テスト
9. スポーツボランティア
10. アメリカのスポーツ
11. オリンピック
12. パラスポーツ
13. スポーツ政策
14. スポーツクラブ
15. 振り返り、まとめ、期末テスト

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習：28時間
 自習のシラバスを確認し、参考文献、「ネット等でその内容を事前に把握する。」
 復習：28時間
 授業における配布資料に再度目を通し、学んだことの振り返りを行う。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本授業を通して、子どもから高齢者までの広範囲にわたる健康分野に関する基礎知識を身に付け、健康・スポーツ関連産業の理解を深めることができることから、本学科のディプロマポリシーの達成に大きく貢献できる科目である。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

考える授業を導入し、授業中に質問し、解答したことを加点する。また、レスポンスの内容を吟味し、質問や疑問に対して、回答するようにする。

実務経験の有無及び活用

市民マラソンの運営、質問紙調査の実施と分析、ジュニアスポーツリーダー講習会・高齢者スポーツイベントの運営など。

備考